

でいるんです。地方の山間部の皆さんもスマホを使いこなしているところもあります。

**岡野** 田舎だからこそ、ですね。

**災害経験が活かされた訓練**

**岡野** 地区ではどんな訓練をされていますか。

**根岸** 相当悩んだのですが、今年は梅雨の前に、独居の高齢者や要配慮者の送迎の想定と、お知らせで訓練しました。「避難してください」といって避難した家は「避難しました」というカードを玄関に出すんです。ですが、区全体じゃなくて、災害リスクの高いところだけでやりました。自主防災といえど、動ける人は限られているので、できる範囲で、できる人がやるしかないですからね。効率のいい、地域にあった避難訓練があったら、参考にしたいと思っています。洪水の危険が高いところ、土砂災害の危険が高いところ、地盤が弱いところと、違いますからね。

**岡野** そうですね、災害も地域性があるので。行政区全体で見ると、大きな災害の時に個人まで手が届かない。だから、現実には難しいでしょうけど、区の中の班や隣組のレベルでの避難訓練、避難計画の話ができればいいです。すよね。行政区全体だとまとまらないし、連絡もつきづらい。両隣と、その隣くらいだったら、まだ、連絡先もわかりやすいでしょうし。

**根岸** 災害時は、連絡がつきづらいですからね。避難していると、家の電話は使えませんか。当時、実際に連絡がつかない家が何軒ありました。みんな親戚とかの家にいて大丈夫だったんですが、行き先がわからなくなっちゃったんです。被災された6軒の方は、携帯電話の番号を聞いて、以降は連絡が着くようになったんですが、平時では、個人情報なので聞きづらいんです。一同 確かにね。

**根岸** 「自治会だけの秘密にします」と言っても、なかなか難しい方もいます。

**行政区から抜ける人は**

**町長** 行政区から抜けてしまう人も多いと聞きます。

**甲山** 草刈りが年を取ってできなくなると、申し訳ないから抜ける、という話を聞きます。できなくなったらそれはしょうがないと、地域でまとまっていくことができれば理想です。ね。

**根岸** 高齢化はしょうがないから、で

きる範囲でやるしかないです。ね。

**小室** 抜ける理由は一つ問題あるよね。個人的な理由で抜けて、災害があった時は、自治会はどう対応しているのか。入っていないからダメ、という訳にはいかないと思うんです。ね。

**町長** 行政区から抜けてしまうと、災害の時に、どうしても行政のサポートが遅れてしまいます。行政からの情報や防災グッズは、まずは自主防災組織のところに行かざるを得ない。だから個人はどうしても遅れてしまうこともあります。

**岡野** 支援しないということではないんでしょうけど。

**甲山** 役をやるのがすごく負担に感じています。

**岡野** 区長さん、私はまだ経験ないですが、大変だと思います。

**小室** でも、全部を一人でやるわけじゃないんだから大丈夫。

**町長** そう、できたら、区長経験者の皆さまのご協力も助かります。

**根岸** 今の団地は40年くらい前にできたので、みんな同時に入ってきましたが、濃いお付き合いはしていません。なので、それでも、区長代理が被災されたので、新たな区長代理を決めよう、と

臨時の役員会をやった時、ある方が自ら手を挙げてくれた。協力してくれる方は本当に助かるんです。

**地域で一緒に何かをする機会を**

**町長** 地域でイベントがあれば、地域の皆さんが参加して、普段からの安否確認ができるんですが、イベントがない地域はそれができない。あれば、打ち合わせも含めて情報交換ができるんだけどね。だから今、ラジオ体操も進めているところです。

**甲山** 私は町外から越してきて、お葬式に参加した際、顔を覚えてもらうきっかけになりました。今はコロナ禍で家族葬が多いので、以前のような交流はまだ難しいですね。本当、小さい単位での集まりは大事です。

**岡野** みんなで集まる行事がどんどん少なくなると、コミュニティが希薄化してしまいます。うちはいいや、って。個人個人が重要視されて、集団行動は面倒、っていう人が多くなってしまっ

**町長** 秩父方面はお祭りが多くて、まだ地域性が残っているようです。

**根岸** 今はなかなか役員が大変ですからね。若い人は仕事で出ているし、高齢化しています。

**甲山** あとは共働きですね。  
**小室** コロナで休んでなおさらね。番匠はこれからまた元に戻しているところと、一生懸命始めています。お祭りの内容もちょっと変わってきていますが、ここ2年は、花火も上げました。  
**町長** 何でもいいんですよ。地域や隣近所で、一緒にやること。今は月イチ食堂の券もあるので、近所で一緒に食事をしてもいいし、ハイキングでもいいんです。そしたら意見交換ができますからね。

**防災キャンプをやってみないか**

**町長** 私は、防災キャンプをやってもらいたいと思っています。参加できる人で、避難所に泊まって、電気を消して停電訓練。炊き出しもできます。  
**甲山** 何かを作ってみるんで食べる、その時間は、ネガティブじゃないので、ちょっと楽しい。

**町長** 車中泊でもいい。みんなが集まって、いわゆるアウトドアの生活を、一緒に時間を共有するんです。  
**岡野** 生活に取り入れられますね。防災キャンプはいいかもしれないです。

**町長** アウトドアを楽しんでいる若い家族は、避難所にもそういうグッズを

**頼るべきは、自助V共助V公助**

**岡野** 最後に何か、ありますか。

**甲山** 最後に、防災士からまとめさせてください。まず、第一にハザードマップをチェックして、自宅、会社、学校が、安全なエリアかチェックする。勘違いされやすいのですが、昨年7月の豪雨災害で「警戒レベル4」「全員避難」とテレビに出たんです。これを見て「逃

持ってきますよね。それで快適になります。自分たちで煮炊きもできます。  
**甲山** 口頃、用意している防災食をもって、子どもと防災ピクニックをしてもいいですよ。  
**町長** そうそう。  
**岡野** 今の防災食は結構おいしいですよ。  
**甲山** 避難して弱っている時に、食べ慣れないもの、冷たいものを食べるってのはすごくストレスになるんですよ。防災キャンプも、庭でいいんです。ただ、例えば朝の6時から夜の6時まで、水道電気ガスを使えないものと設定して、使う水の量を考えるなど、家族で準備を考えるのが大切です。

げなきゃいけないの！」と思った方が結構いたらいいんです。でもこれは、「今いる場所が危険だったら逃げてください」ということ。それも、大雨で真っ暗な中、二次災害にならないよう、大雨なら垂直避難するとか、臨機応変にする。要配慮者がいたり、車がない人の場合は、もっと早い段階の時に避難しなくてはならないと判断して動く、というのが大事だと思います。

あと、「自助共助公助」といいますが、なぜ自助と共助が大事かというと、阪神淡路大震災で、公助で助けられた人はたった1割なんです。公助に頼らず、事前に防災対策をする人が増えれば、本当に助けが必要な人に公助が届く、ということを知ってほしい。また、災害時に避難所に行ったとしても、元氣な人、手伝いができそうな人は、何かできることに参加して、助ける側に回っ

てもらいたいです。

**町長** 行政は、住民の生命財産を守ることが責務。まずは生命第一で考えています。よろしく願います。

**岡野** 長時間にわたり、貴重なお時間をありがとうございました。(一)一同 ありがとうございます。

